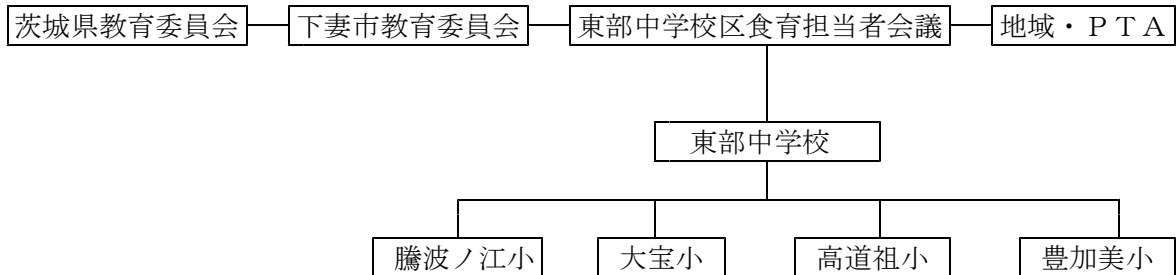


栄養教諭を中核とした食育推進事業 事業結果報告書

都道府県名	茨城県
推進地域名	下妻市 (東部中学校区)

1. 事業推進の体制



2. 具体的取組等について

テーマ1	教科・領域を活用した食に関する指導の充実
-------------	-----------------------------

- 東部中学校区食育担当者会議の設定
 - 第1回 平成22年 6月 4日 (金)
 - 第2回 平成22年 7月 14日 (水)
 - 第3回 平成23年 2月 1日 (火)

実践中心校(東部中学校)・実践協力校(騰波ノ江小 大宝小 高道祖小 豊加美小)の校長、給食主任、養護教諭、PTA会長、農政課、保健センター管理栄養士、食生活改善推進委員、教育委員会が本事業の趣旨や実践について共通理解をして、協力体制を確立した。(34名)
- 発達段階に応じた食育の指導目標と指導内容の系統表の作成
 - 小学校1年生から中学校3年生までの指導目標を設定する。
 - 昨年度の指導を振り返り、より発達段階に応じた指導内容となるよう、指導計画を見直す。
 - 系統性のある指導計画を作成する。
 - 発達段階に応じた評価規準を作成する。

【 給食時の指導年間計画 小学校 】

月	目 標	第1週	第2週	第3週	第4週
4	おまけをすて楽しんで給食しよう	おまけの仕方	真鍮の蓋の仕方について	【マナー】1・あいさつについて	
5	給食をのこさずしっかり食べよう	給食三原則について	お米・ごはんについて	すきあいについて(牛乳をのこす)	
6	器に食をつけて真事をしましょう	真事・地産産について	手洗いをしよう	【マナー】2・姿勢(食器の持ち方)	
7	暑さにはまけない体をつくろう	真事・地産産について	暑さにはまけない食事について		
9	三度の食事をしっかり食べよう	真事・地産産について	朝・昼・夕の三食をしっかりと食べよう	朝ごはんは大事(朝のおすずめの組み立て)	
10	バランスのとれた真事をめざそう	真事・地産産について	赤・青・緑の働き(旬の力)	すきあいをなくそう(三角食)	【マナー】3・気持ちのよい食べ方(はし・箸の持ち方・出さず)
11	感謝の気持ちをもつて食べよう	真事・地産産について	お米に感謝しよう(豊っ子フェスタイバル)	食べ物はどこからくるの?【マナー】4・おはしの持ち方	
12	日本の食文化について知ろう	真事・地産産について	行事食を知ろう(おこし)	日本食について(だし・乾物など)	
1	給食について知ろう	真事・地産産について	給食調理について(給食の歴史)	牛乳の給食を持ってきている人について	
2	健康な食生活について知ろう	真事・地産産について	おいしい食生活(旬の食べ物や調味料を調べる)	よく飲んで食べよう【マナー】5・はし使いについて	
3	楽しかった給食を振り返ってみよう	真事・地産産について	一年間の給食を振り返る(できたかな? うれしかったかな?)		
- 効果的な指導ができるための教材・教具の開発
 - 発達段階に応じた教材・教具の開発
 - 教材・教具が各学校で共有できるための教育情報ネットワークの活用
- 食に関する指導の手引書の作成
- 栄養教諭と学級担任によるTT指導を展開するための校内研修の充実
 - 栄養教諭を講師とする校内研修の実践
 - 昨年度の研究成果を踏まえた校内研修の実践

食育サイコロ

〈 使い方 〉

①サイコロを振り、出た面の「お題」について話す

〈例〉今日の朝ごはん
→「ごはんをみそするです」

- 教科・領域における食育指導の共通理解
 - 豊加美小での実践（食育の授業）
 - 第1回 平成22年 6月25日（金）
 - 4年生 特活 「よくかんで食べよう」
 - ・よくかんで食べると身体に良いことを栄養教諭と体験を取り入れながら学習した。
 - 5年生 総合 「おいしく食べよう下妻」
 - 6年生 道徳 「未来を切り拓く」
 - 第2回 平成22年11月21日（木）
- 【 栄養教諭を活用した授業 】**



テーマ2 学校給食を中心とした食習慣改善のための取組

- 1 アンケートによる実態調査
 - 定期的にアンケートを実施し、実態調査をする。（6月と12月との変容の比較）
 - 調査結果をもとに、研究内容の成果と課題を把握する。
- 2 特別活動と連携した取組
 - 委員会活動や係活動の充実
 - 「食事のマナー」の指導、お箸の持ち方検定
 - 掲示物等による啓発



【 大宝小 給食コーナーでの啓発 】



【 学級の給食コーナーでの啓発 】

- 3 学級担任と連携した取組
 - 学校給食時における栄養教諭の教室訪問
 - 学級担任と連携した栄養教諭による直接的な指導の展開
 - 栄養のバランスのとれた献立づくり
 - 会食のマナーの指導
 - 楽しい会食
 - （交流，親子，お花見給食，誕生日等）
- 4 児童生徒による給食献立づくり
 - 各学校からのリクエスト給食の実施
 - 給食献立の紹介
 - 給食献立コンテストの実施
 - 家庭科の単元と関連を図った献立づくりの実施



【 豊加美小 校長先生との交流給食 】

5 食育つうしん等の発行

- 各学校では、月に1度給食だよりを発行し、栄養・マナー等について保護者に啓発した。
- 学期に1回ずつ、担当する学校を決めて「食育つうしん」を発行して、それぞれの学校の取組を紹介することにした。

【食育つうしん 第2号】



テーマ3

家庭や地域との効果的な連携や啓発のための取組

1 家庭との連携

- 学校保健委員会の実施（騰波ノ江小）

- ・ねらい

学校、保護者、学校医が本校児童のよりよい食生活について情報交換を行う。

- ・内容

児童の生活習慣や食習慣の実態、実態調査から見られる問題点・改善策、意見交換、学校医からの指導、次回の学校保健委員会の開催について

- ・成果

本校児童の問題点が明らかになり、食育についてめざす方向がはっきりとした。



【学校保健委員会の実施】

- 給食試食会の実施（各小学校で実施）

- ・ねらい

保護者が学校給食を試食し、食に関する情報交換をすることにより、学校給食についての理解と食育の重要性に関する理解を深める。

- ・感想

「地元の食材がたくさん使われた給食をおいしく食べられた。」「今度家でも作りたい。」「久しぶりに小学生に戻ったようだ。」という声があった。



【給食試食会】

2 地域との連携

- 保護者を対象とした料理講習会の実施

- ・平成22年 9月30日（木）

- ・午前・午後の2回実施

- ・保護者（70名）、

保健センター管理栄養士

食生活改善推進委員（13名）



【料理講習会の様子】

○PTA食育講習会

・ねらい

規則正しい食生活が体力向上、学力向上につながることを認識し、自分の生活習慣改善に努める。

・内容

日 時 平成22年11月30日(火)
 場 所 東部中体育館
 テーマ 「欠食、偏食していませんか？
 しっかり食べて強くなろう！」
 講 師 M I Pコンディショニングセンター
 管理栄養士 花谷 遊雲子先生
 参加者 500名
 (東部中学校生徒・保護者・教職員、
 食育担当者会議委員等)



【 東部中学校 食育講演会 】

・事後指導



【 東部中学校 サッカー部での指導 】

講演会後の感想の中では、「緑の野菜を意識して食べたい」「運動後の食事をするタイミングが大切だということなので、これからは意識してみよう」など、食が自分にとってどれだけ重要かを認識し、食生活の見直しや改善について積極的に取り組もうとしている様子が確認できた。

講演会後、部活動単位で栄養教室を開催し、継続した指導を進め望ましい食習慣が定着するように努めた。

○PTA専門委員会での啓発活動

PTAの専門委員会では何かPTAとして取り組めることはないかと考え、リーフレットを発行することにした。

学校から保護者への啓発だけでなく、保護者から保護者への動きも見られるようになった。



【 リーフレットしょくいく 】



○米づくり (田うえ、稲刈りの体験活動・収穫祭)

○野菜づくり (GT 保護者)

4つの小学校ともに米をつくったり、野菜をつくったりする体験活動を行った。

地域の方や保護者の方に作り方を教えてもらったり、一緒に試食することで、地域の方とより深く関わったり、農作物が好きになったりした。



【 GTをまねいての収穫祭 】

テーマ1～3に共通する具体的計画

1 食に関するアンケートの実施

○学校のある日は、朝食を食べている割合が高い。しかし、食事内容が「主食のみ」「主食と主菜」等、内容を改善していく必要がある。

2 実践校による情報の共有

○学校間でネットワーク化がされているパソコンを利用して、食に関する情報（教材・教具、お知らせ・お便り等）を共有できるように努めている。

3 保護者や地域との連携

○東部中学校区食育推進担当者会議を設置し、地域の保護者、PTA、各種関連団体と協力体制を築き、地域での食への関心を高めていく。

数字で変化のあった事項について

○食生活に関する調査を行い、児童・生徒・保護者の食に関する意識や実態の変容を調査した。

○児童（一部抜粋）

No	項目	22年6月	22年12月	比較
1	いつも朝食を食べる割合（平日）	95%	95%	→
2	いつも朝食を食べる割合（休日）	82%	81%	↘
3	朝食内容（主食・主菜・副菜・汁）	17%	25%	↗

○生徒（一部抜粋）

No	項目	22年6月	22年12月	比較
1	いつも朝食を食べる割合（平日）	88%	87%	↘
2	いつも朝食を食べる割合（休日）	69%	65%	↘
3	朝食内容（主食・主菜・副菜・汁）	16%	17%	↗

○保護者（一部抜粋）

No	項目	22年6月	22年12月	比較
1	（保護者自身） 毎日、朝食を食べる割合	85%	89%	↗
2	（保護者自身） 給食関係等の配布資料を必ず読む割合。	48%	53%	↗
3	（子どもに） 三食必ず食べるように話す割合	87%	92%	↗

事業全体を通じて、特に効果のあった方策等について

○食育推進担当者会議を設置し、地域の保護者、PTA、各種団体等が取り組んだことにより、地域での食育推進のためのネットワークが構築され保護者の食への関心を高めることができた。

○小中の栄養教諭と担任が連携し、発達段階に応じた食に関する指導内容の検討を行ったことにより、教職員の食に関する指導への理解も深まり、給食の時間や教科における指導も充実した。

今後の課題(今回の事業により新たに見えた課題など)

○小学校、中学校の発達段階に配慮した食に関する指導の研究を行い、子どもの心身の健康を育んでいく。

○食育を推進するためには、家庭、地域とさらに連携した取組が必要となってくる。今回のネットワークを今後も活用しながら、地域と一体となった食育を推進していきたい。